つながれ ひろがれ

Vol. 18 (領価200円)

環境パートナーシップちば

代 横山清美

千葉市中央区中央港1-11-1

(財)千葉県環境財団 環境学習推進室内 043-246-2180

FAX043-246-6969

2000年の元気を2001年に

代 表 構山 漕 美



持ちで応援しています。

2000年度より「環境パー トナーシップちば」では、 温暖化防止活動を統一テー マとして学習会を開催してき ました。また、『環パちば』は、

「環境シンポジウム2000千葉会議」開催後にも次の 活動につなげていくことを目標に、「温暖化防止」活 動の継続を支援しています。分科会参加者で3月下 旬には「地球温暖化防止推進会議(仮称)」を立ち上 げる予定です。なかなか取り組みにくい活動ですが、 ライフスタイルを変えて温暖化防止に取り組まない 限り人間が生きられない地球になってしまいます。 人間も共生できる地球でいてほしいと祈るような気

シンポジウム後にはこの分科会の他にも分科会「め ざせ!ごみゼロ」でも参加者を中心に「ごみゼロネ ットちば21 (通称GONET)」を立ち上げ、3月11 日に「目指せごみゼロ!大交流会」を開催しています。

一方、シンポジウム自体も2001年度立ち上げの早 期化をめざし準備会を立ち上げ、環パちばも事務局 を千葉県環境財団環境学習推進室と協働することと

なり、ますますシンポジウムでの働きが注目されて います。こんな活動を支えていただくスタッフを次 ページにて募集していますので、千葉県の環境ネッ トワークのために是非一緒に活動をお願いいたします。

前回もこの『だより』にてご報告してまいりまし た千葉県の「ディーゼル車排ガス対策懇談会」は、2 月23日に第3回が開かれました。この中でただ情報 を公開したからそれで良いというものではなく、わ かり易く心に届く広報が必要であり市民に繰り返し お知らせすることが大事と提案しました。

『環パちば』としても広報の点では「だより」の 充実は元より、インターネットによる広報について も検討しています。みなさまのご意見をお待ちして います。

このように2000年はスタッフ一同元気にパートナ ーシップによる環境保全と環境ネットワークを求め て動き回りました。2001年は更にスタッフ増強をは かりますますの元気を得て、パートナーシップによ る環境保全・そのためのネットワーク・政策提案を めざし活動してまいります。2001年もどうぞなおい っそうの皆さまのご協力をお願いいたします。

CALANTAL AND THE PROPERTY OF T

コラム

住み良い街づくい

循環型社会で

今、地球環境の現状を思うとき大量生産、大量消費、 大量廃棄という時代は過ぎ、限りある資源を如何に有 効に活用するかという循環型社会の構築に向けて進ま なければならないと思います。すでに自治体や企業に 於いては懸命に取り組みつつあります。

又、私達家庭に於いても他人事で はなく、自分の事として真剣に取り 組まなければならないほど、地球 環境は悪化の一途をたどっています。

この現状を良く認識して社会のあり 方を変えない限り解決出来ない第二の環境 の危機に直面しているように思います。

そこで、より良い環境を保持していくためには、私 達の日常生活の上でまずごみを出さない、あるいは減

らすことに専念し、出たごみについては分別を徹底し て行い資源化して再利用を義務付けるなど、環境保全 上で受ける色々な制約を受け入れその様々な制約の中 で、限りある資源やエネルギーを効率よく利用する努

力と私達人間の知恵を働かせ、これまでの

資源、エネルギーの大量使用に依存し た消費生活のパターンから脱却す る努力をすると同時に環境に対す る意識改革も行わなければならない

と思います。 横須賀 靖

そして私達一人一人が人類の福祉に貢献する と共に市民の健康で文化的な生活の確保と住み良い街 づくりに向かって努力していきたいと思います。

「総会のご案内について」

春の花だよりも届く昨今となりました。皆様には益々ご活躍のことと拝察いたします。

さて、平成13年度の総会はバス運行による鴨川市の「千枚田」他の見学を取り入れた"エコツアー"ヲ兼ねての移動総会と致しました。

万障繰り合わせの上、ご出席くださいますよう ご案内申し上げます。

バスとは別行動で参加される方は、直接会場に 11時50分までにおいで下さい。総会終了後、"エコツアー"を実施いたします。

1. 総会について

とき : 5月12日 (土)

会場 : 千葉県鴨川市大山 鴨川青少年セ

ンター (大山不動尊境内)

時間 :12時開始 13時終了予定

内容:・平成12年度事業及び会計報告

・平成12年度会計監査報告

・平成13年度事業計画(案)及び予

算(案)

・役員選出ほか

2. バスを利用される方(総会+エコツアー)

出発地1:船橋駅北口の天沼公園

8:00 (集合次第)

出発地2:千葉駅前NTT社前

8:45 (集合次第)

会 費:1000円

(バス代、保険代、有料道路代ほか)

お弁当 :各自持参してください

見学地 :総会終了後、千枚田・みんなみの

里・酪農の里・道の駅など

申込方法:同封ハガキに記入して、返送して

下さい。

※ 新年度の会費をご持参下さい。



環パちば「運営委員およびスタッフ」募集について

ネットワーク「環パちば」の活動につきましては、 日頃よりご協力賜り御礼申し上げます。

さて、私たち環パちばの運営につきましては加入会員の皆様から自発的にご支援を頂き、積極的にスタッフとしてご活躍いただき、より良い活動展開が出来るよう考えております。

つきましては、団体・個人会員の皆様から、運 営委員として応援くださいますようご協力をお願 いし、常にリフレッシュ体制で活動が展開出来るよう頑張りたく存じます。

運営スタッフとして、皆様のご協力をお願い出来ますよう3月31日までにお申し出いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

我こそはと自薦他薦も問いません、お待ちしております。

●「環パちば」の運営システム

- 事業部(事業の企画実施に当る)

部長1、副部長1、スタッフ若干名

運営委員会 ― 部会 ― 広報部 (広報だよりの発行、情報発信、環パちばPRなど)

部長1、副部長1、スタッフ若干名

- 総務部(環パちばの総務一般に当る)

部長1、副部長1、スタッフ若干名

一代表 副代長 会計 書記 各部長 副部長

※ 運営委員およびスタッフの任期は1年としますが、再任は妨げません。



~環パちばは、 中間組織としてのはたらきを~

新年を迎え、門松もとれた1月28日あいにくの大雪の翌日でしたが、千葉県青少年女性会館において、環パちば団体会員・NPO千葉まちづくりサポートセンター事務局長 栗原裕治氏を講師に招き「環境NPO」と題して学習会を行いました。

内容としては、次のような事が話されました。

1. NPO法とは何か【概要と立法者の意思】

NPOとは、ノン・プロフィット・オーガニゼーション(民間非営利組織)。

2001年1月12日現在の法人数が全国で3200 団体千葉県内で89団体、非営利の提案・事業 実践型の市民組織。NPOの法施行までの経緯・ 組織・法人設立の手続き・立法者の意思と時代 背景。来年度の税制大綱にNPO優遇が盛り込 まれ、各地にNPO支援センターなど、NPO の基盤を強化する環境が整備されつつある。

2. NPO法人の自立とは【支持基盤の確立と信頼 の醸成】

何のために何を目指し、どのような活動をするのか(目的の明確化)。

市民活動は、これまでの社会に不足しているサービスを補う活動。

批判・対立型の市民活動から情報開示を原則と した提案・事業活動への転換。

社会環境整備と期待される支援。

3. NPO法人の運営と課題【市民参加の拡大】

NPOの社会的責任とは、公益性、非営利性、 持続性、公開性など。

発展しているNPOは、若者や専門家の参加率が高い。

環パちばが既に中間組織の役割を果たしている中で、環境系のサポートセンターの運営・学習会、講習会、人材育成・情報提供、研究活動・ネットワーク管理などのこれからの展開が考えられる。

等お話いただいた後、県内の法人立ち上げの実例と 運営状況なども話され、質疑応答では設立を考えて いる会員からの熱心な質問があり、有意義な学習会 でした。

この感想を参加者の伊原 香奈子さんからうかがいました。

「NPOの幻想」

営利を目的としない事業をし、団体を維持させる だけの人材と組織力を持ってる、そんなイメージを 私は持っていました。だから『NPO』という言葉 がつくと、なんとなくかっこ良く感じ、格が上がっ た団体に感じてしまう。しかし、現実はそうではな いということを今回改めてわかりました。書類が整 うだけで法人を手に入れることができる事実。NP ○団体の約半数が休眠状態に陥っている現実。行政 はNPOだからとひいき目で見てはくれないし、か と思えば、行政の便利屋として利用される節もある。 財源力もないから、職員はただ働き同然。提出しな いといけない膨大な各種書類作りに翻弄され、今ま でやってきた活動さえ停滞しかねない。決してNP Oという言葉は、市民活動を支える救世主ではない ようです。しかし、取得へ向けて会員が一丸となる 為、連帯を強化するきっかけになり、目的目標を今 一度しっかり明確に捉え直す機会にはなる。むしろ そんな過程に意義があるのかもしれません。

この学習会の後第2部として、千葉県の大気保全課寺井 賢一郎さんから「千葉県のディーゼル車対策を進めるためにアイディア,意見,応援をお願いします。」と題して、用意下さった資料をもとに千葉県のディーゼル車排ガスの概要をお話いただいた後、皆さんにもできるだけ多くの意見を県にお寄せ頂きたいと話されました。これによって2月23日に開かれた第3回の『ディーゼル車排ガス対策懇談会』までに参加者の方からのご意見が千葉県に寄せられたことご報告させていただきます。

この時の資料必要な方は、『環パちば』事務局宛に請求ください。

またご意見は、FAX: 043-224-0949 自動車公害対策室あてか

eメール: taiho6@ml.pref.chiba.jp まで今後も ご意見をお願いしたいとのことでした。今、県民の 意見・提案が望まれています。是非皆さんのご意見 をお願いいたします。

これからの市民活動は、提案・事業活動を目的とするNPO活動をとの栗原氏の講演とも合致した企画になり、その後希望者による新年懇親会とも合わせて大変有意義な一日となりました。

(担当 総務部)

エコツアー

茨城県自然博物館とキリンビール工場の見学

この "エコツアー"は、会員同士の親睦と情報交換と、そして『新しきを知る学びの場』として、平成13年2月20日(火)参加者25名の方々を得て実施されました。帰りの車中で、皆さんから伺ったアンケートのいくつかをご紹介させていただきますので、このツアーの様子などご想像ください。(敬称省略)

①初めて知った、気づいた、学んだことなど

- ・ 菅生沼の150羽位のコハクチョウが羽休めている姿は、あたりの景観とマッチして素晴らしかった(高嶋)
- ・博物館で大勢の子供達の明るい挨拶はとても気持 ちよかった (T・A)
- ・茨城に白鳥が飛来しているということを初めて知った。 (川瀬)
- ・菅生沼ふれあい橋の水位がなくなっている所に、 水鳥の足跡が織物のデザインのようで美しい

(イノウエ)

・館内が立派なのにびっくり。自然の仕組み、水の 中の魚のことなど目を見張ることばかり

(梅沢)

- ・本館の展示の他にたいへん広い自然とのふれあい の場所があるが、広場など人工的すぎる(松尾)
- ・コハクチョウ150羽生息(平山)
- ・初めてビール工場を見学して、積極的に環境保全 に取り組んでいることに感心した。(中村)
- ・ビールを濾過したあとの残さは牛の飼料として使われ、牛の好みに合わせて糖分や塩分などを配合する。(高橋) (横山)
- ・茨城自然博は雄大な菅生沼を眼科に田園にあるが、 これも何年続くことやら。周囲の開発が目立つ

(成一)

- ・茨城自然博は実に不便な所ではあるが、内外共に 輝いていた。これからは都市部だけでなく日本中 に点在させてほしい(石家)
- ・多くの環境団体の方にお会いし、同じ志を持って いることに気づいた(田口)

② 嬉しかったこと

- ・約40億年前の石にさわれたこと。 (無記名)
- ・相変わらずパートナーシップの和が十分に保たれ ていた。老若男女心がひとつに環境のお勉強

(石家)

- ・世界のチョウ展を見たとき、種類の多さと羽根の すばらしさに感動した。 (イノウエ) (O生)
- ・展示室で宇宙空間を体験し、本当に宇宙にいる心地になりました。 (高嶋)

- ・世界のチョウ展で、採集したときの子どもの言葉 が書き添えられていたのが新鮮で感動(高橋)
- ・天気に恵まれ、風もなく、館外での昼食が快かっ た (大西)
- ・ 今日一日『環パ』さんといっしょに行動したこと(中村)
- ・ ビールが美味しかったこと (多数)

③残念だと感じたこと

- ・バスが渋滞にまきこまれたため見学時間が少なく、 企業の取り組み等、詳しく聞けなかった。(全員)
- ・菅生沼に洗剤や化粧品のビン、その他雑多なごみ が流入していた。 (T・A)
- ・高速道路のノロノロ運転中、隣りを走る運転手が 雑誌や新聞を読みながら運転。事故にならなけれ ば良いがと心配した。(森谷)
- ・植物に関心があり屋外を見てまわったが、はっきり言って絶望。芝生とコンクリート、アスファルトの道路が半分以上。博物館職員の「ここは自然観察ができるようになるべく手を入れない所と少しだけ手を入れる所にしている。」との説明とは異なっていて、屋外はダメだと思った。菅生沼をお薦めする。(秋本)
- ・集合時間が守れなかったことを、残念に思う (S・H)

4その他

- ・もっと早く環境問題に目覚めていれば、ここまで 生態系がくずれなかったと思う。 (川瀬)
- ・今回のツアーは、たいへん楽しかった。次回も是 非参加したい(多数)
- ・自己紹介だけでなく、初対面の方々と歓談できたら良かった。安全を考慮した上でバスの席を次々と送って対談するゲームなどやってみたらいかがでしょう。(盛一)
- ・渋滞等で見学時間がなくなり残念。出発時間を8 時半頃にしたら無理ですか? (N・E)
- ・ツアーの場合、目的地に適した出発地の選択の重大性を改めて認識しました(田口)
- ・次回は勝浦周辺に行きましょう (平山)



(Electric 環境の輸送広げる) 一団体会員の活動紹介—

NPOまちづくりサポートセンター



ボーンセンターは、1999年6 月に千葉県内で8番目のNPO 法人となりました。

NPOとは、自発的・主体的 に公益増進のための事業を行う

延藤安弘 代表 市民による民間非営利組織です。

成熟期を迎えた日本の社会では、公益性の決定に市民が参加し、市民による公益の維持・増進のための活動が盛んになっており、既に全国で3000団体以上のNPOが誕生しています。

ボーンセンターは、主にまちづくりの分野で活動する市民や市民グループ・市民団体等を支援す

るために、まちづくり専門家や市民参加のまちづく りの実践家が集まり、組織されました。

このようなNPOを中間支援組織といいます。

現在の正会員数は、個人103人、団体6団体で、 その中から総会で選ばれた18人の運営委員と、15 人の顧問、常設(平日の午前10時~午後5時)の 事務局で運営されています。

まちづくりの現場は、福祉活動、文化活動、社会教育活動、環境保全活動、防災・安全活動、産業振興活動など、様々な活動が関係しており、ボーンセンターの活動も様々な分野にネットワークが広がり、多彩な相談に応じています。

また、行政とのパートナーシップに基づく調査研 究事業やコンサルテーション事業、単独あるいは実 行委員会を組織化しての啓発事業、提案事業など、 市民参加のまちづくりを支援するための幅広い事業 を展開しています。

談話室

この談話室は、皆さん の自由なご意見をお待 ちしています。お気軽 に投稿して下さい。 (1)

千葉市2001年2月3日~5 日の消費者生活展のごみを考えるイベントに参加しました。 一人が1日に出すゴミの量と 経費に対する流れ、ごみ生産者、 ごみの量、ごみの行方などが 展示されていました。ごみの 減量やリサイクルについて、 一人の意識の高揚につな

がったものと思います。ごみにするか、宝にするかはあなたの腕次第ですよ。

環ちばではボランテイアグループ相互には交流はあるものの、地方のイベント情報については、自分が手にするときはもう間に合わないことが多い。一ヶ月以上のゆとりのある情報が欲しいものだ。情報を提供するグループは早めに出しましょう。 (I.K) (2)

市原市も、ついに「ゴミ袋指定都市」となる。

それが、"市が指定したゴミ袋"と、"市が指定した企画に合格したレジ袋"という。これを聞いていちばん喜んだのは、『石油』君ではないだろうか。これで『石油』君は、ダイレクトに燃やされて人生(?)を終わってしまう仲間が少なくなり、いろいろな方面でリユースされ最後にゴミ袋として一生を終わるという、資源としてのあるべき姿をまっとうできることに満足するに違いない。しかし、こういう柔軟な発想を取り入れた市原市のお役人さんに、心から拍手を送りたい!

(3)

1996年の環境シンポジウム千葉会議で講演いただいたグラウンドワーク三島事務局長の元気な「渡辺豊博さん」を覚えてらっしゃいますか? 最近また講演を聞く機会がありましたが、あのときのパワーがますますアップしていることに驚きました。

ただ今話題の「富士山クラブ」の事務局長として、 今年は富士山頂上にバイオトイレを設置すると燃えて いました。ボランティアで、トイレに入れるチップを 運ぶんだそうです。

議論よりも額に汗するボランティアをめざしている、 以前と変わらない姿勢に感激しました。本職は、静岡 県生活・文化部NPO推進室長の「行政市民」。

 $(Y \cdot K)$

(4)

私の20世紀最後のイベントは、御宿町の町議補欠選挙にチャレンジしたことでした。投票日がなんと12月24日のクリスマスイブ、キリスト様のご加護あれかしと念じて決意し、何と投票日までたった2週間と言う離れ業。いま思うに、よくぞやっちゃったな~と言うハプニング。5日間の告示期間、町内80ケ所で辻説法、むろんトップ施策は「環境問題」、女性議員の誕生と21世紀に新風を吹き込もう!と声を枯らして、喋りまくり訴えました。

金権、保守地盤一色でよどんで来た我が町にも、時代の風は確かに吹いて来ました。結果は僅差で残念でしたが何より嬉しかったことは、「かもめ」で10余年継続したボランテア活動の評価が、しっかり確認できた事です。議会へアタックするのは、ボランテア活動の究極の方法論かも知れませんね。 (t・N)



千葉市消費生活展に出展して

千葉市エコリーダー連絡協議会 代表 木野村 秀夫

消費生活は人間が生きている以上、毎日の問題であり、環境の影響は大量生産、大量消費、大量廃棄の「ツケ」として社会問題化しています。

私たち環境に取組んでいるボランティア団体としては見逃すことの出来ない、また、改善に取組まなければならないたいへん重要な問題であります。当協議会発足後、数年ではありますが、以前から千葉市の主導のもと、毎年消費生活展が開催されていることを知り、昨年の千葉市の三越デパートの特設会場にて消費生活展を見る機会を得ました。

私たちの「くらし」に密着した、たくさんの提案・啓発・啓蒙の機会であることの認識を得たのであります。環境という側面から市民への方への訴えかけるよい機会ととらえ、昨年そごうデパートで行われた第28回千葉市消費生活展に千葉市はじめ、関係団体、更に多くの方々のご理解を戴いて初めて参加することができました。初めてのことなので、当初とまどいもありましたが、展示目的の骨子は①市民の方々のわかりやすいこと②環境にとって今すぐ取組まなければならない大切な問題であること③誰にでもすぐ取組めるものの3点を基本にして、テーマは「私達に出来る環境対策は」と致しました。ご承知の通りCOP3京都会議は地球温暖化対策が急務であるとして決議されました。テーマである「私達に出来る環境対策は」この主旨に沿っており、タイム

リー且つ適正なテーマであったものと考えております。開催に当たり、パネル展示のみならず、アンケートによる、市民の方のご理解を得るように努めました。300件以上の方へ働きかけをすることができ、初回にしては予期以上の成果ではなかったと考えております。

さて、今年は第29回の消費生活展が千葉市緑区の鎌取にあるジャスコ「ゆみ~る」にて2月3日~5日に開催されました。前年と同様、出展の骨子は上記のキーポイントにして、私たちの生活で毎日かかわりのある「ゴミ問題」をとりあげ、千葉市における、年間の排出量、市民一人当たりの排出量と費用(税金)の点、更に目で見えるように、ゴミの実際の量を確認の為現物(模擬のゴミ)を用意して、体験(体感)していただき、ゴミ分別の判断も体験(4つのR)をしていただきました。

会場では前年のように、アンケートも準備し、パネルでも訴えかけました。その結果、テレビ (CNC) で3日間放映され、地元紙の千葉日報にも掲載され大いにPRできたものと考えております。以上、これまでわずか2回にわたる消費生活展の大まかな状況でありますが、今後も機会があれば、是非参加をして、環境改善につながるよう努力して参りたいと考えております。



使われ始めた時事 用語をわかりやすく 解説します。

"容器包装リサイクル法"

法律に基づいて200億円を売上げる小売業で1億円以上のリサイクル費用を払っているのをご存知ですか。

容器包装リサイクル法は平成7年にPETボトルとガラスビンの分別収集と再利用を義務付けるために制定されました。現在は紙やプラスチック類にも広

げられています。

この法律は各家庭のあなたには"ごみを分別し、 仕分けして排出する義務"を定めています。缶、ビン、箱やフィルムなどを製造し、それを使って商品 を売っている人には自分でリサイクルするか、必要 なお金を払うことが義務付けられています。

いわば環境税に似た制度が定められているのです。 日本全国で行われている訳ではありません。やるか やらないかは各自治体の判断に任されています。

この様な制度は家電製品を始め自動車、建築資材、 外食産業などについても次々に定められています。 これからの社会にとっては必要な制度であることは



間違いありません。でもゴミ処理はますます難しい 問題になりつつあるのが現実なのです。

一番大きな理由はリサイクル費用を商品を売る時の価格に上乗せする制度がしっかりしていないことです。リサイクルには大変な費用がかかります。新しい原料からものを作るほうがリサイクル品を使うより安いのです。

リサイクルされた品物は新品よりも性能が落ちます。紙やプラスチックでは特にそうです。新品に近づけようとするほどお金がかかります。悪くすると新品を使うより資源やエネルギーを余計に消費してしまうケースさえあるのです。当然ながら、しっか

"家電リサイクル法"

21世紀の資源循環型社会を目指して、家電品のテレビ(液晶画面除く)、冷蔵庫、洗濯機、エアコンの4製品については、消費者が廃棄する際、販売した小売店は消費者からの収集とメーカーへの引渡しを義務づけられることになりました。

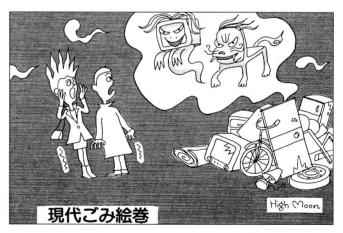
つまり、消費者はメーカーのリサイクル費用と小売店に引き渡す時の運送費用+消費税を負担することになるのです。

リサイクル費用は、テレビが2,700円、冷蔵庫4,600円、洗濯機2,400円、エアコン3,500円と定められておりますが、運送費用については小売店ごとに集積地までの費用がまちまちであるため、異なってくるものと考えられます。よって消費者の支払う額は物により異なりますが、4,000~6,000円位と

りした再利用のシステムがないと高くて、少し性能が落ちる商品を使ったり、買ってくれる人は沢山はいないのです。商売をする人が利益を損なってまで協力するのは難しいことです。消費者が高い費用を負担しても循環型社会を形成するためにリサイクル品を使う社会のルールを作る必要があります。消費者である私たちもごみ処理には大変な費用を払っています。その費用は税金から賄われているのでなかなか身近には感じることが出来ません。皆が頭割りで平等に負担しているのが今のルールです。いろんな議論がありますが、沢山ゴミを出す人が沢山費用を払うシステムを考えることも必要です。

4人家族が一週間分のゴミを出すのに約1,300円の費用を直接、払うシステムに変えればゴミを減らす意識も大きく様変わりするのではないでしょうか。今はその費用は皆さんが平等に税金から払っている訳です。

容器包装リサイクル法をスタートに社会システムの変化は始まっています。時間はかかるかも知れませんが、限りある資源を大切にするには消費者自らが相応の負担をする必要があることを学んでゆかなければなりません。



予想されます。

家電リサイクル法実施に当たり、各市町村では消費者向けの広報活動を行っておりますので、不明な点は各市町村役場の窓口へお問合せください。

イラスト:『絵コロジー』より出典

地球の未来のために"レスポンシブル・ケア"を

今回の訪問先は、市原市千種海岸にある『JSR 株式会社』(以下『JSR』)とした。その訳は昨年秋、筆者がケナフの紙すき講師として招かれたことを発端とし、社員の山村寛氏が『環境シンポジウム2000千葉会議』にスタッフとして参画して下さるようになったことに起因している。

昨年度ケナフの紙すき道具一式を車に積み込んで初めて『JSR』を訪れたとき、出迎えて下さった社風の暖かさに、"快い戸惑い"を感じたあの不思議な体験が今も蘇る。

工場敷地内は野鳥へのプレゼントを意識した実のなる樹木の他に、"常緑芝"(ケンタッキーブルーグラス)という真冬にも青々とした緑を保ち緑化基準の枠に認定されている芝地やケナフの畑。それを育てる食堂の生ごみを堆肥化するしゃれたコンポスター。そして食堂の喫茶室にさりげなく飾られた自然の恵みを素材としたリースやデコレーションが、一服のくつろぎを求める心に爽やかな味付けをほどこしていた。これも若い社員、大和久氏の作品という。

この"快い戸惑い"を感じさせた『JSR』の前身は、『日本合成ゴム㈱』。1960年、日本における初めての本格的合成ゴム生産工場として四日市に誕生し、その後のモータリゼーションの進展と共に急激な合成ゴムの需要に対応し、第二工場として千葉臨海工業地帯に進出したのが1986年。



世界で初めてという独自の技 術開発によりブタジエン樹脂 等のプラントを稼動し、い わゆる"化学物質"の生産 において目覚しい躍進を遂げ、通産

大臣賞や労働大臣賞など、あまたの受賞の栄に浴している。しかし、"化学物質"の生産に携わるがゆえに「レスポンシブル・ケア」(化学物質を製造または取り扱う事業者が、自己決定・自己責任に基づき、化学物質の開発から製造・流通・使用・最終消費を経て廃棄に至る全ライフサイクルにわたって『環境・安全』を確保することを経営方針において公約し、安全・健康・環境面の対策を実施

し、改善を図っ 活動)へは真りな 組みにはありな出のがら出めなり 場から出りな の廃棄物は 利用され、焼却



炉の廃止と『ゴミ・ゼロ運動』の達成に及んでいる。1999年には、ISO14001への登録も可能とし、ソフト面では地域との交流を大切にし、工場見学や地域産業祭への参加や国道16号線の緑地帯清掃など、地道な活動も続けている。筆者が『紙すき講師』として招聘をうけたのも、その一環といえるのかも知れない。

『JSR』が生産している化学物質(素材原料)は、CDや携帯電話、そして上質印刷物のコーティングなど、ごく身近にあって私たちの生活を支えてくれている。もはやその存在なくして生活を語れない以上、松本栄一社長の"社会に対する透明性の追求"を信じて交流を計りたいものである。

取材・山口 由富子

〈環境パートナーシップちば〉

入会申込書 (該当するところを○で囲んで下さい) 会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として) 会費を添えて入会します

氏	名	入会月日
住	所	〒
T E	EL	F A X
申込み先		TEL 0 4 3 - 2 4 6 - 2 1 8 0 FAX 0 4 3 - 2 4 6 - 6 9 6 9
年 会 費		個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円
会費納入先		郵便振替口座 00160-9-401872 環境パートナーシップちば

編集後記

新年にエコバスツアー(茨城自然博物館&麒麟麦酒工場ゼロエミッション)を挙行して、会員の皆さまの関心を歴史とリサイクルの先鋭工場へことと拝察いたします。環境問題に関わる私たちはいたうと、環境問題に関わる私たちはでの伝言者になればと思います。電リサイクル法も実施段階に入りしたる事が書者の皆さまは、現まかりも見据えて一人が良きカかけつと見据えて一人が良きかけつらください。あなたが守る自然と環境!!! (深尾)